

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175700335		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホーム ほろむい		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-127 (電話) 0126-26-5673		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月22日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】 (19年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 15年 8月 1日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	21人 常勤18人, 非常勤 3人, 常勤換算19.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 16,000円	
敷金	有( )円 ○無	暖房費(11~3月)	4,500円	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )円 ○無	有りの場合償却の有無	有 / ○無	
食材料費	朝食	350円	昼食	400円
	夕食	516円	おやつ	円
	または1日当たり		1,266円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	25名	男性	4名	女性	21名
要介護1	7	要介護2	8		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 84.5歳	最低	72歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中クリニック、牧病院、岩見沢脳神経外科、倉増整形外科、カムピラ歯科、北翔病院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームほろむい」は、岩見沢市幌向の静かな住宅地にディサービスと併設して平成15年に新設されたホームである。ホーム周辺は住宅街と畑が広がり、季節感のある自然環境の中で利用者はゆったりとした暮らしをしている。当ホームは、利用者が「安心して暮らし、自分らしく生きる」の理念のもと設計された施設で、共有スペースの居間はゆったりと広く、落ち着いた調度品で家庭的雰囲気に満ちている。職員の中には、ディサービスを含めて4人の看護師がおり、多数の協力病院との連携によって利用者は安心して生活できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回実施の外部評価で指摘された要改善事項について、施設構造上改善の困難な事項などの一部を除き全体会議や職員のミーティングで検討し、改善への取り組みを進めている。項目別では適切な居室温度調整、ゲーム類の用意、言葉遣いのあり方、緊急時の訓練、研修への参加なども改善が実施されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は施設長と3ユニットのホーム長(ユニット管理者)が作成し、これを全職員が検討して最終的にまとめている。自己評価の取り組むべき事項については、全体会議やミーティングで具体的改善策を検討し、順次実施するよう努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、平成18年5月より2ヵ月毎に自治会会長、包括支援センター、民生委員、利用者、利用者家族、職員をメンバーとして開催されている。会議ではホーム概要や運営状況など報告のほか、施設長が地域に根ざすホームのあり方などの話をしたり、参加者からの意見、要望などを聞き、ホームの運営に反映させるようにしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の殆どは月1回以上の訪問があり、その際に職員が気軽に話し掛けて、利用者の生活状況を伝えたり、家族の意見や要望を聞くようにしている。家族からの意見や要望などは、会議等で話し合い、利用者へのケアサービスに反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設後4年の経過を経ており、代表者も近くの住宅に住んでいるため周辺住民のホームに対する理解度も高く、町内会加入や町内会行事への積極的参加などの努力により、地域との連携が高まってきている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人は、グループホーム独自の運営理念をつくり、地域住民との係わりを重視しながら利用者のケアサービスに努めているが、理念には地域密着の内容が示されていない。	○	地域密着型サービス施設としての存在意義を高めるため、運営理念の中に地域の人と支え合いながら暮らす主旨の文言が入ることを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、パンフレットに記載され、ホーム内にも分かりやすい場所に掲示されている。職員も運営理念の重要性について認識し、理念を共有しながら、日々のケアサービスに活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、町内会へ加入し、町内会行事へも積極的に参加している。代表者が同じ町内に居住していることもあって、周辺住民の理解度も高く、地域の一員として地元との交流がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解しており、評価結果について、全体会議や職員のミーティングで問題点を検討し、具体的改善に取り組んでいる。		

岩見沢市 グループホーム ほろむい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年5月より2ヵ月毎に地域代表等をメンバーとし開催されている。会議ではホーム概要、運営状況報告のほか、施設長からホームのあり方などの話をしたり、意見交換もなされ、会議の結果をケアサービスに活かすよう努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市では、管理者会議が開催されていないが、ホームの資料や運営推進会議録を市に提供したり相談するなど、積極的に接触しながら行政との連携に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、郵送の「ホーム便り」とホーム来訪時に利用者の暮らしぶりを詳しく伝えている。来訪の少ない家族には電話で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に施設長、ホーム長(管理者)や職員が意見や要望を聞くようにしており、不満や苦情があれば全体会議やミーティングで検討し、ケアサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が運営する施設は、グループホーム2ヵ所とデイサービスがあるが、原則として職員は固定して移動はなく、馴染みの関係が続いている。なお、外出行事は各施設合同で行なうこともあるので、相互の交流もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みは、法人として内部研修を実施しているほか、救命救急は全員が受講している。そのほかの外部研修へも職員に情報を提供し、希望者はローテーションを勘案しながら参加可能である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の管理者会議がないためほかのグループホームとの接触の機会は少ないが、同業者とのネットワークづくりなどの交流をすすめる機運がある。	○	ほかグループホームとのネットワークづくりを早急に推進し、情報交換や相互見学など積極的な交流推進を期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居希望者が発生した際には、家庭を訪問して家族や本人に会って状況を把握している。さらにホーム見学や併設のデイサービス利用に訪れてもらい、職員と話しをするなどホームに馴染める環境を作るようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とともにホーム内の作業、運動、遊びごとを行ない、菜園での野菜作りを教えてもらうなど、ともに支え合う関係を築いており、利用者は家庭的で親しみのある雰囲気の中で暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの生活において、利用者一人ひとりの思いや暮らし方が違うため、職員は日常の言動や表情、また家族からの情報によって利用者の意向の把握し、信頼関係を築きながらケアサービスに努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、できるだけ家族からの意見や要望を聞き、利用者の思いを把握しながら全体会議やミーティングで慎重に検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状態によって3ヵ月～6ヵ月毎に定期見直しを行なっている。さらに利用者の状態変化が発生した際には、その都度、家族や医療機関と相談しながら随時見直しを行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者を掛け付け病院や理美容への送迎、デイサービスで行なうイベントへの参加、認知症など相談を受ける体制の確立などと柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関は毎月2回の往診と24時間体制で相談可能な内科クリニックのほか、精神科、外科、整形外科、脳神経外科、歯科と各科がある。さらに利用者が希望する医療機関の受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、利用者の重度化に関する指針を作成し、看護師の職員を中心に家族や医療機関と相談するなど方針を共有している。また、終末期のケアについても家族の要望に応じて対処し、最終的には病院紹介などを行なっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーや誇りを損なわないよう十分に注意しながら対応しており、各種記録など個人情報の取り扱いも、職員は慎重に行なっている。	○	ホーム入口に用意してある家族面会簿は、一覧性があり、誰が訪問したか分かる状態のため、カード記入式など、訪問者に分からない様式に改めることを望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ホームの決まりや自分の都合に合わせるのではなく、あくまでも利用者の気持ちを汲み取り、利用者一人ひとりのペースに合わせ、日々の暮らしやすさを大事にしながら支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは職員と利用者が一緒に行ない、食事中は職員が話し掛けたり、さりげなくサポートして食事を楽しめるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人週2回程度のペースで午後の時間帯に実施しているが、利用者の希望や状態によっては、シャワー浴など柔軟に対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	クリスマスや節分など季節の行事、誕生会や敬老会、掃除、洗濯などホーム内の役割、畑作業、各種ゲーム類の実施など楽しみごとや気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム近くの公園などへの散歩やドライブなどの外出支援のほか、年間行事計画により動物園・温泉へのバスツアー、バラ園見学、いちご狩など、多彩な企画を立てて実施している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関には夜間帯を除き、施錠をしていない。ドアには鈴がつけられており、出入りが分かるようになっている。		

岩見沢市 グループホーム ほろむい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年1回防災避難訓練を実施しており、救命救急訓練も全員が受けている。また防災対応マニュアル等各種マニュアルも整備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分、食事の摂取状況が毎日記録されており、食事内容については栄養士によって栄養バランスのある献立が作られている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム用に設計された施設で、共用スペースの居間は明るくゆったりとしており、雰囲気のある調度品が置かれている。壁には利用者の手づくりによる飾りがあって家庭的で季節感があり、居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、明るく清潔感があり、利用者は使い慣れたものや好みの家具などを持ち込み、のびのびと生活している。また、暖房は床暖によるため、安全で安心して過ごせる居場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。